

茨内水試 かわら版

69号

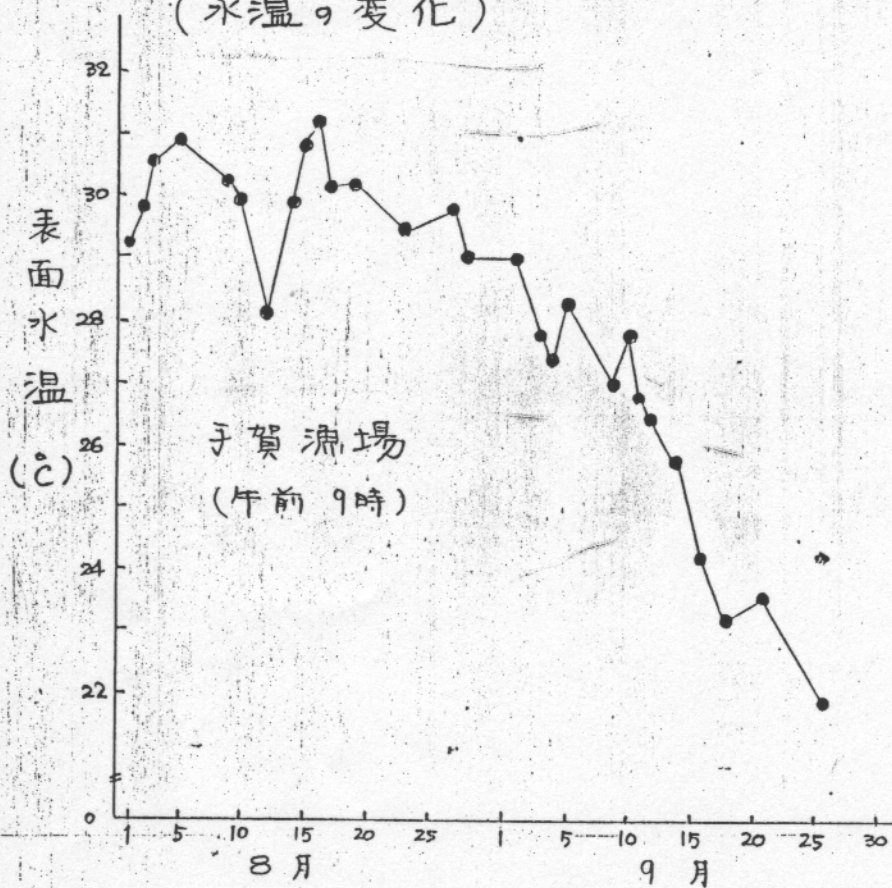
低くなった

水温

九月に入ってから、水温は急に下がり始め、今では八月の最高水温に比較すると、約10℃近くも低くなっています。

このように水温が低くなると、お陰で細いけす養殖ごいの酸欠死の心配は、すこしは少なくなりました。

(水温の変化)



というのは、魚もそうですが、生物は温度によって、非常に大きな影響を受け、一般に、温度が高く

なると、酸素を使う量が多くなります。この場合、水温が10℃上がると、1リットルにとって必要な

茨内水試図

酸素量は、約三倍近くも多くなります。ですから、今のうちに水温が低くなるまで、酸素の量が、それだけ少なくて済み、酸欠には良い傾向だということになります。とはいえ、水温が低くなると、餌の食いが悪くなるか、テトラピアの成長が落ちる等の都合の悪いこともでてきます。酸欠については、先きが見えてきたら、感じですが、まだ、酸素量の低い漁場があります。